



道德部会

道徳部

道徳科を通した意志をもっている姿

道徳的価値の理解を自分との関わりで捉え、対話を通じて、自らのよりよい生き方について見つめ直そうとする姿

視点 1

自らの学びをつなぐ

【その姿に向かうために】

- 主題構成及び授業の導入時と終末時に、道徳的な課題への現時点での自分の考えを問い、その考えを比較しながら学べるようにすることにより、道徳的価値に対する納得や変容を自覚しやすくする。
- 「教材との対話」と「自分自身との対話」を通じて考える学習過程を繰り返すように授業を構成することにより、教材と自分の認識とのずれや、自分自身の中にある思いのずれから課題意識をもち、自己内対話ができるようにする。
- 道徳的価値が実現できるよさを価値付け、主題構成や授業を振り返るときに、「学んだことをこれからどうつなげるか。」という視点を設定することにより、学習内容を自分事として捉え、今後の学習や生活に生かそうという意識をもてるようにする。

視点 2

他者の学びを 自らの学びに つなぐ

【その姿に向かうために】

- 端末や思考ツール等を活用して整理した、課題に対する一人一人の考えを全体に共有することにより、お互いの考えの違いに気付き、もっと知りたいという思いをもつことができるようにする。
- ねらいに即して立場や考えを整理することにより、対話でつながる相手を選んだり、他者の考えを通して自分の考えの妥当性に多面的に向き合ったりできるようにする。
- 道徳的価値の意義と、それを分かっているけどできない人間の心の弱さの両面が浮き彫りになるような問い返しを、対話を整理する中で行うことにより、より多くの人にとって望ましい生き方を理解すると同時に、そのような生き方を踏まえた上で「自分はどうするか。」を考えることができるようにする。

※下線は教師の手立てを示している。

道徳部の成果と課題

【令和7年度の道徳部で目指した意志をもっている姿】

道徳的価値の理解を自分との関わりで捉え、対話を通じて、
自らのよりよい生き方について見つめ直そうとする姿

次年度につなげていきたいことや方向性について

視点1 自らの学びをつなぐ

「個の問い」から

「みんなの問い」へ束ねる時間の確保

道徳的な課題に対する自分の考えを明らかにした上で、主題構成全体や本時の学びをスタートできるようにした。そうすることにより、一人一人が納得解の形成において、自分の考えの変容や一層の納得に気付く姿を生むことができた。

しかし、最初に形成した個々の考えから、「個の問い」をもち、それを「みんなの問い」として共通の課題を生み出していくことはできなかった。教材の内容から問題意識を醸成するのではなく、教師が考えさせたいことに誘導するような形になっていたため、子どもが自分事として学び進めることが難しく、終末の振り返りにおいて本時の学びを自分自身とつなげて考えることに困る感じる子どもの姿もあった。そのため、個々の考えから「個の問い」を生み、「みんなの問い」へと束ねる時間を十分に確保する必要がある。

それにより、導入時に抱いた問題意識を教材へとつなげ、より自分事として考えながら学び進める姿を目指す。

主題構成全体を通して学びをつなげる工夫

学んだことを今後の生活や学習に生かしやすくするために、教材同士の配列や他教科・領域との関連を吟味したことにより、本時主義に陥らず、一定期間の中で育てたい力を明確にして継続的な関わりができた。しかし、そのような意図を教師のみが把握しており、学習者である子ども自身に示されていないことにより、学びを次につなげていこうとする主体性を十分に発揮できない姿も見られた。

改善策として、主題構成全体を通して育てたい力を子どもと共に明らかにし、それに対して、毎時間どのような学びを得られたのか分かるような学習記録を書くことが考えられる。そうすることにより、自らの育てたい力に向かって主体的に学びを調整していく姿を目指す。

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

他者の学びをつないだ自覚を深める

振り返りの視点の設定

問いに対する話合いにおいては、道徳的価値の意義やその実現の難しさについて多面的・多角的に気付けるよう、教師が意図的に問い返しを行い、様々な立場の意見の整理を行った。それにより、全体交流の場であったとしても、自分の考えと他者の考えとを比較しながら発言し、自らの考えを深めていく姿が見られた。

しかし、振り返りの記述に現れる一人一人の納得解の中に、他者の考えに基づく妥当性の検証結果がどれほど反映されているかを見取することは難しかった。他者とのつながりがどの程度自らの考えの形成に寄与したのかを見取りやすくするために、これまでの振り返りの書き方に加えて、「他者の学びを受けて自分が考えたこと」を記述するような視点の設定が必要である。

それにより、納得解の道徳的な妥当性に向き合うことに加え、話合いにおいても他者と学ぶことのよさを感じながら自分の学びを深める姿を目指す。

価値理解を深め、よりよい生き方を志向できるような、他者との「ちがい」を生み出す問いの醸成

他者理解を深めるため、問いに対する一人一人の考えを、端末や思考ツール等を使って全体に共有した。そうすることにより、お互いの考えの違いを明らかにし、そこから教師が端緒を開いて対話を構成していった。

しかし、ねらいに迫るために教師が問い返しをすることも多く、子どもが他者を求め、本当に考えたいと思う問いが醸成できていたとは言い難い。そのため、主題全体を見通して、「なりたい自分になるために考えるべきこと」という視点から問いをつくる経験を重ねることが必要だと考える。

それにより、他者との「ちがい」を、よりよい自分の目指すために必要なものとして前向きに捉え、積極的に他者を求める姿が生まれると考える。

【本主題で目指す意志をもっている姿とその理由】

友情の在り方を多面的に捉え、自他の友達観を行き来しながら、友達との関わり方を選ぶ姿

3年生は、友達との関わりが大きく広がる時期にある。その中で、自分の考えを強く主張したり、相手と思いがすれ違ったりして、友達関係に悩むことがある。だからこそ、互いの考えや思いに寄り添い、信頼し合える関係を築いていくことが大切である。そこで、3つの教材と特別活動の学びを通して、友情の形は一つではなく、それぞれによさがあると気づき、友達との関係についての考えが段階的に広がる主題を構成した。そうすることで、各教材で描かれる友情の在り方を多面的に捉え、自他の友達観を行き来しながら、自分が望ましいと思う友達との関わり方を選ぶようにする。こうした学びをつなげることで、自分の信念をもち、さらに友達と望ましい関係を築こうとしつつも、柔軟に考えを変化させる子どもの姿を生む。そのことが、日常生活や行事等の中で、自分の考えを大切にしつつ、相手の立場にも立って考え、仲間と支え合いながらよりよいものを創り上げる力を育むことにつながる。

【主題のねらい】

- ・友達を思いやり、互いの考えや思いに合わせて柔軟に考え、友達の願いを支えるために、自分のできることを精一杯行動し、信頼して助け合える関係を築く大切さが分かる。【道徳的判断力】
- ・自他の違いを受け入れ、互いに思いやる心をもって、友達の喜ぶ姿を願いながら、相手のために精一杯尽くした人の心や行動に感動する。【道徳的心情】
- ・友達と互いの気持ちを心から大切にしながら、自分にできることを行動に移し、共に助け合って過ごしていこうとする。【道徳的实践意欲と態度】

視点1 自らの学びをつなぐ

友達観の変容の自覚

導入で、友達観のアンケート結果を提示する。そして、提示した考えと終末の考えを比較しながら、友達観の変容を自覚できる振り返りの場を設定し、友達との関わりを見つめ直せるようにする。また、人間と友達になれた赤鬼の思いに立ち返らせ、「人間の友達ができたからいいのではないか。」と問い返すことで、青鬼がかけがえない友達だと気付けるようにする。それらによって、友達は心が通じ合う関係だと考えが広がり、望ましい友達との関わりを選ぼうという意志をもてると考える。

【主題構成（3時間扱い）】

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

他者理解を深める教材提示

本時では、泣いている赤鬼の結末の姿を提示してから範読に入る。そして、赤鬼の涙に含まれる思いを引き出し、「人間の友達ができたのに、なぜ泣いているのか。」という理由に焦点化できるようにする。それにより、他者との考えのずれを浮き彫りにして、他者との対話の必要感につなげる。そうすることで、対話を通して、自他の友達観を行き来しながら、友達とは楽しいという関係だけではなく、心の通じ合う関係も大切であると柔軟に考えを変化させる子どもの姿を生む。

友達と望ましい友達関係を築くために大切なことは何だろうか？

B. 友情 信頼

道 徳 科

教科・領域等

第1学年及び第2学年
→友達と仲良くし、助け合うこと。
1年 みんなで たのしく
2年 わの にわとり
おぼやない りすさん
なかよしで いたい
モムンとヘーテ

第3学年及び第4学年
→友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。
3年 友だち屋
ないた赤おに
赤い灯 ゆれる
4年 まい友だちになるために
心を一つに
しんじ合うカ

第5学年及び第6学年
→友達と互いに信頼し、学び合って
友情を深め、異性についても理解し
ながら、人間関係を築いていくこと。
5年 ドッジボールを百倍楽しくする方法
ミレーとルソー
6年 めざせ 百八十回！
友のしょうぞう画

1. 友だち屋【B 友情、信頼】

なぜキツネは「何時間でもタダ」と言ったのかな？

くまさんというときは無理して
いるし、我慢して楽しくなさそう自分の宝物をくれたおおかみさん
は、本当の友達だと思うな。

お互いに我慢をしすぎずに、楽しいと思える関係が本当の友達だと気づいたからだね。

楽しい関係

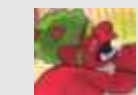


2. ないた赤おに【B 友情、信頼】

赤鬼の涙にはどのような思いがたまっているのかな？

なぜ青鬼のことを殺
ってしまったんだはなればなれになって
しまった悲しいよ僕のために本当に
ありがとう

旅に出た青鬼に対して、離れる寂しさや感謝の思いで泣いているんだね。



心が通じ合った関係

3. 赤い灯 ゆれる【B 友情、信頼】

3人の行動は、どのようなよさがあるのだろうか？

友達を笑顔にす
ることができるねそれを見た周りの人も
嬉しい気持ちになるねより信頼される人
になれるね

友達を喜ばせたり、自分やその周りの人も嬉しくなったりするよさがあるね。



支え合う関係

帰りの会

いいところ見つけ

「お日様タイム」で
1日の中で見つけた
友達のよいところを
発表する場面を設け
伝え合う。

行事

学習発表会

練習や準備の中で、
互いに支え合いなが
らよりよい発表を目
指す態度を育てる。

互いの考えや思いを受け止めながら、自分の考えも大切にしつつ、できることを行動に移すことが大切だね。
そうすることによって、友達と助け合って過ごしていく関係を築いていくことができるね。

【本時のねらい】

赤鬼が青鬼の手紙を読んだときの涙の理由を考える活動を通して、自他の友達観を行き来しながら、友達と心が通じ合う大切さに気付き、互いの気持ちを大切に、望ましい関係を築いていこうとする心情を育てる。

【道徳的心情】

【本時の展開】（２／３）

子どもの意識と活動	つながっている学び	教師の意図とかかわり
＜前時まで＞ 「友だち屋」【友情、信頼】の学習を通して、一方だけが楽しく、もう一方が我慢を強いられる関係はよい友だちではないことに気付いた。また、双方が共に楽しいと感じられる関係こそが、望ましい友だち関係であるということを学んでいる。 きつねはくまと一緒にだと、我慢しながら一緒にいて辛そう。 おおかみと遊んでいるときは、楽しそうに笑っているよね。 互いに楽しく過ごすことができるのがよい友だちだね。 ○これまでの生活経験から、自分の考えを見つめる。 遊ぶ 助け合う 友達は○○○関係 楽しい 仲がいい ○赤鬼の始まりと終わりを知る。 赤鬼の願い 村人と仲良くなりたい！ 友達になれた！けれど... 赤鬼の結果 涙をながして泣く ○教材の内容を理解する。 赤鬼の涙にはどのような思いがつまっているの？ 「○○○という思いで泣いた赤鬼」とタイトルをつける 「感謝で泣いた赤鬼」 僕のためにここまでしてくれて、本当にありがとう。 人間と仲良くなるように協力してくれてありがとう。 青鬼に対して 「後悔で泣いた赤鬼」 なんで、自分のことしか考えていなかったのだろう。 青鬼のことを何であんなに殴ってしまったんだ。 「悲しみで泣いた赤鬼」 青鬼と離れ離れになんかなりたくないよ。 青鬼がいなくなるなんて考えてもいなかった。 赤鬼は、旅に出た青鬼の手紙を読み、青鬼の思いやりの行動に気付き、離れる寂しさや感謝の思いで泣いているんだね。 ○導入時の考えと比較しながら、これからの自分につなげる。 友達は○○○関係 今、近くにいる大切な友達に対してもっと思いやりの心をもちたいよ。 「心が通じ合える関係」を自分も友達とつくりたいなと思ったよ。 自分も、友達の思いを大切にできることをしていきたいな。		
生活経験の想起 生活経験から得られた「友達観」のアンケート結果を提示することで、これまでの友達関係についての考えを明らかにする。 （視点１） 題材の結末を提示してから、内容理解に入り、赤鬼の涙に含まれる多様な思いを引き出し、焦点化できるようにする。 （視点２） 人間と友達になった赤鬼の思いに立ち返らせ、「人間の友達ができたのに、なぜ泣いているのか。」と問い返すことで、赤鬼にとって青鬼には、かけがえのない友達だと気付けるようにする。 （視点１） 導入で明らかにした友達関係の考えと、終末の考えを比較しながら、自らの友達観の変容を自覚できるような振り返りの場を設定することで、友達との関わりを見つめ直せるようにする。 （視点１）		多面的多角的な理解 価値の見つめ直し

【本時の評価】

友達とは楽しいと感じられるだけではなく、心が通じ合っている関係のよさに気付き、これからの友達との関わりを見つめ直し、選択しようとしている。

（ノート・発言）

授業後の振り返り

【本時の板書】



視点1 自らの学びをつなぐ

【成果】

- 導入で、生活経験から得られた「友達観」のアンケート結果をテキストマイニングにより提示したことにより、これまでの友達関係を見つめ直す姿が見られた。
- 人間と友達になった赤鬼に立ち返らせて、青鬼は旅に出たが、人間の友達はできたことを想起することで、「青鬼は、赤鬼にとってかけがえのない友達である」ことに気付いていた。

【課題】

- 「友達とは〇〇関係」についての考えを書いたワークシートを机上に貼り、終末にも立ち返らせることで、考えの変容を自覚する姿を狙った。しかし、これまでの友達関係を見つめ直し、これからの友達との関わり方を選ぶ意志への高まりを生むには不十分であった。終末にも机上に貼ったワークシートを活用し、考えを更新していく場を設定することで、考えの変容を自覚することができるのではないと思う。
- 内容項目「友情・信頼」を貫く主題構成にし、友達にいての自他の価値観を行き来しながら、友達との関わり方を選ぶ姿を狙ったが、教材間の繋がりが薄く、学びを繋げる姿は見られなかった。1時間の授業内での繋がりはもちろん、他教科や日常生活の中で更新せれていく価値観についても、変容な自覚できるような工夫を考えいくべきだと思う。

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

【成果】

- 題材の結末を提示してから、内容理解に入ることによって、赤鬼の涙に含まれる感謝・後悔・悲しみ等の多様な思いを生み、涙の訳に焦点化して話そうとする姿が見られた。

【課題】

- 赤鬼の涙に含まれる思いに焦点化することはできたが、青鬼の視点について考えを深めることが希薄になってしまった。青鬼の思いにも寄り添い、内容理解を進めていくことができるように、「どうして青鬼は、自分の家に貼り紙をしたのか。」「旅に出るときは、どのような気持ちだったのか。」等のように発問したり、子どもの発言に応じた問い返しをしたりすることが必要だと考える。また、自分の経験を話すことができる道徳科のよさを生かし、「自分だったら…」と教材と自分を繋げて発言した子どもの発言を丁寧に扱い、今後の生き方に繋がる展開をしていく必要がある。

『わがままをしない』

【本主題構成で目指す意志をもっている姿とその理由】

程よく自分のしたいことするよさに多面的に気づき、快適に過ごすために大切なことを考え直そうとしている姿

1年生は、規則正しい生活が送れることのよさを感じられていなかったり、心の弱さ故に自分の言動にブレーキを掛けられなかったりすることが多い。それに対して、一般的に「自分勝手ではいけない。」など我慢することに重点を置いた学習が実践されてきた。しかし同時に、一人一人が節度をもって生活することの意義やよさは、自分だけのものではなく、他者も感じるができるものである。そのため、本主題構成では、節度・節制について考える際、導入と終末の発問を吟味し、周りの人のことも考えられるようなワークシートを提示することで、他者の視点をもって考えを広げることができるような学習を展開する。その中で、上述のような意志をもった姿を生むことにより、他者のことも考えながら自律的に行動したり、節制を心掛けることで生涯に渡って自他の心身の健康を保ったりする基盤を養っていくことを目指す。

【主題構成のねらい】

- ・健康、安全や周りの人や物のことを考えて、自分のしたいことを度を越さないようにするために大切なことが分かる。【道徳的判断力】
- ・健康、安全や周りの人や物のことを考えて、自分のしたいことを程よく抑えることのよさに心が動く。【道徳的心情】
- ・健康、安全や周りの人や物のことを考えて、節度をわきまえて行動しようとする。【道徳的实践意欲と態度】

視点1 自らの学びをつなぐ

導入と終末で自分事にする発問

本主題構成では、導入時に自分の生活経験を想起させ、終末にこれから自分がどうしていきたいか、について考えることができるような発問をする。そうした授業展開を繰り返すことで、学習内容を自分の生活経験と関係付けて捉え、これまでの自分の姿を振り返りながら、これからよりよい生き方を目指していきたいという思いがもてると考えた。

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

追究を深めるための見取りと板書の構成

本時では、ワークシートの様子から、周りの人のことも考えるようにしたい、と考えている子を見取り、全体で共有する際に、視点を分けて板書に位置付ける。そうすることで、よりよく生きるための視点を、「自分」から「周りの人」へと拡張し、「他者視点」を明確にもって自律的に行動しようという思いを高めている姿を生むことができたと考えた。

【主題構成（4時間扱い）】※時数は、第1学年分のみ

健康や安全に気を付けながら過ごしたり、わがままをしないように心掛けた生活を送ったりすることのよさは何だろう？

『わがままをしない』（1年生）

1. 「あおしんごう」【A 節度、節制】

安全に生活するためには、どんなことに気を付けたいかな？

親や先生に言われたことを守る。

言われなくても、自分の頭で考える。

自分の心をコントロールする。

自分で自分の心をコントロールして、きまりを守ることが大切だね。

2. 「かぼちゃの つる」【A 節度、節制】※本時

かぼちゃは、どうしたら楽しくなるのかな？

周りの人の言うことを聞く。

やりたいと思って、我慢する。

他の人の気持ちや将来のことも考える。

周りの人の話を聞いたり、相手の気持ちを考えたり、時には我慢をしたりすれば、楽しく生活できそうだね。

3. 「ちゃんとの たつじん」【A 節度、節制】

「ちゃんとできる」ってどういうこと？

自分からやる。

毎日できる。

一人でもできる。

自分で毎日できることを増やしていきたいな。

4. 「うわばきぶくろ」【A 節度、節制】

物やお金を大切にすると、どうなるかな？

壊れても直して使う。

感謝して使う。

乱暴にしない。

お手入れをしたり、感謝したりして使い続けると、いい気持ちだね。

自分や周りの人の健康や安全に気を付けて過ごすことによって、みんなが心も体も気持ちよく過ごすことができるね。自分自身を見直し、自分の置かれた立場をよく考えながら程よい生活を送ることができれば、みんなの快適な生活を守ることができるね。

【本時のねらい】

自分の生活経験と関係付けて考えながら、節制を心掛けるよさを多角的に理解することを通して、快適に過ごすために周りの人のことも考え、わがままを抑えて生活しようとする実践意欲と態度を育てられるようにする。

【道徳的实践意欲と態度】

【本時の展開】（2 / 4）

子どもの意識と活動	つながっている学び	教師の意図とかかわり
＜前時まで＞ 「あおしんごう」【節度、節制】の学習では、安全な生活を送るために、自分の心をコントロールすることや、きまりを守ることの大切さを学んでいる。		
急いでいても、命を守るために、信号を守ることが大事だね。	自分の心のブレーキを踏めれば、いいことがありそうだね。	怪我をしないように、お家の人に言われたことをしっかり守るよ。
○生活経験の想起から、学習内容を自分事として捉える。 好きなことをしていると、どんな気持ち？ 楽しい。 嬉しい。 もっとやりたい。 ○教材の内容を理解する。		
かぼちゃは、どうしたら楽しくなるのかな？		
自分の畑の中だけで伸ばそう。自分が怪我をすることもできないから。		自分の畑を出る時も、邪魔にならないように伸ばそう。他の人が困るから。
他の人の注意をちゃんと聞く。	やりすぎないようにする。	もっと早く我慢する。
嫌な気持ちにならないように。	怪我をしないように。	周りの人の邪魔にならないように。
自分	心のブレーキ	他者
他の人のことも考えて、楽しく！		
周りの人の話を聞いたり、相手の気持ちを考えたり、時には我慢をしたりすれば、楽しく生活できそうだね。		
○これからの自分につなげて考える。		
「注意を聞く」が大切だと思った。そうすれば、ひどいことにならないから。	「みんな」が大切だと思った。自分だけでなく、友達も大切にしたいから。	「早めに我慢」が大切だと思った。自分も相手も楽しみたいから。

自分の生活経験

生活経験の想起を促すことにより、教材内容を自分事として捉え、これまでの学びと本時の学びをつなげることができるようにする。 **（視点1）**

多角的な自己理解

伸ばし方を書けるワークシートを提示し、なぜそのような、つるの伸ばし方をしたのかを問うことにより、自分のしたいことを程よく抑えることのよさに焦点化した対話ができるようにする。

かぼちゃが取るべきだった望ましい行動とその理由を問い、自他の視点ごとに分けて板書で整理していくことによって、節度をもって生活するために必要な視点について、対話を通じて考えを深められるようにする。 **（視点2）**

価値の見つめ直し

「今後、自分が心のブレーキを踏むために大切にしたいこと」を板書上の言葉から選んで、ネームカードを貼るように指示し、その理由を全体で交流することによって、価値に対する捉え方や感じ方を見つめ直すことができるようにする。 **（視点1）**

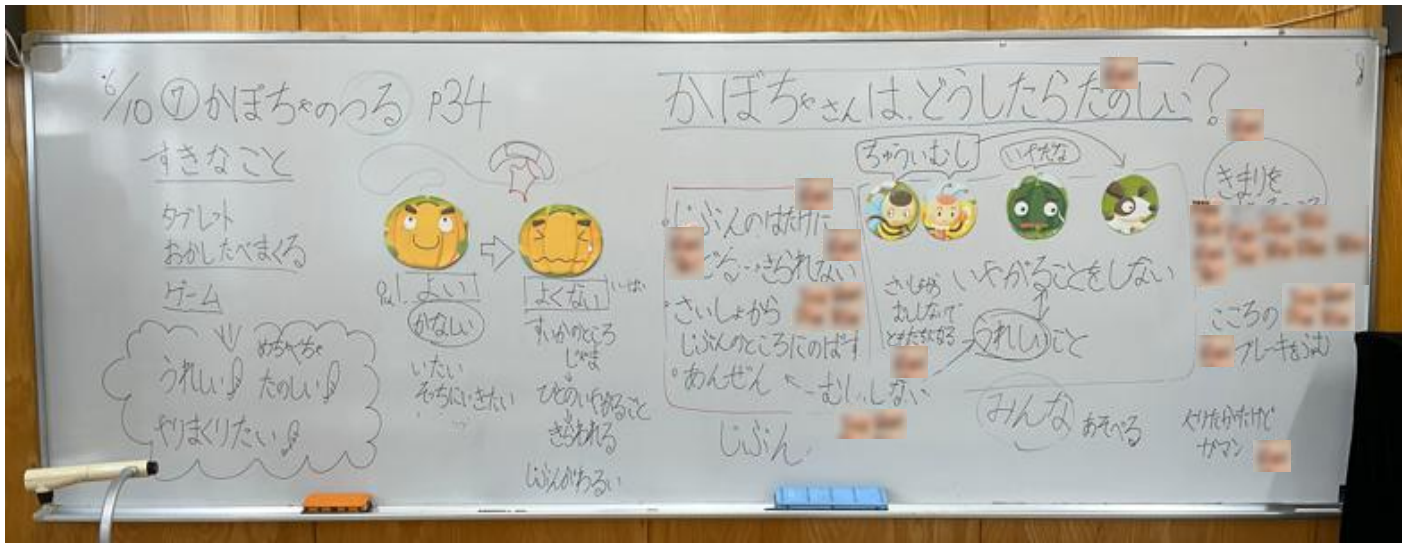
【本時の評価】

快適に過ごすためには、周りの人のことも考えて自分のしたいことをするよさを理解し、これから自分が大切にしたいことについて見つめ直している。

（発言・ネームカード）

授業後の振り返り

【本時の板書】



視点1 自らの学びをつなぐ

【成果】

- 導入時に本時のねらいと関わる生活経験の想起を促したことにより、教材と生活をつなぎ自分事として考えようとする姿が見られた。
- 終末において、本時でねらいとする道徳的価値の実現に向けて、自分が大切だと思う言葉にネームカードを貼って表現する活動を行うことにより、教材の読み取りに終始せず、現実の道徳的実践へとつなげて考える姿を生むことができた。

【課題】

- 導入時の生活経験の想起は、教材を自分事として捉えることには有効であった一方、その後の話し合い及び終末においては、道徳的な課題に対して「自らの生き方をよりよく見直そう」という意志への高まりを生むには不十分であった。教材とのつながりを考慮しながら、道徳的な課題に対して十分に向き合えるような、本質的方向での発問の精選や、本時だけでなく、主題構成全体を通して自分が育てたいと考える力(=内容項目をもとにした道徳的諸価値)に対して自分の学びの状況をモニターできるような工夫が必要であると考えます。

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

【成果】

- 規則を尊重し、よりよく生きていくための視点の拡張を図るワークシートの活用や板書構成により、全体交流を通して、みんなが快適に過ごすためには、他者視点をもって自律的に行動していこうという意志をもつ姿を生むことができた。

【課題】

- 問いの文言を「～どうしたら楽しい？」としたことにより、どうすれば「善い」のか、という道徳的な課題に対する話し合いとなりづらかった。それゆえ展開前段では、解決策の発表会の様相を呈してしまい、自らがよりよく生きるために他者の学びを取り入れようという思いの醸成が不十分となってしまった。意志を教科の本質的な方向に発揮する学びをつくるために、子どもが本当に考えたい問いを醸成する時間を確保すること、及び教師が適切な問い返しを行っていくことが必要であると考えます。
- 終末においては、子どもが自分の納得解をもてるような活動を行ったが、本時の学びを通して一人一人の中に形成された納得解が、どの程度他者性をもち妥当なものなのかを検証することは困難であった。そのため、振り返りに視点を設けたり、振り返りの記述様式を規定したりすることにより、他者との学びが有効であったと実感できたり、他者を必要としながら学んだりすることができるようになるのではないかと。